

| | | | |
|-----------------|--|-----------|-------------------------|
| 科目名 | 化 学 | 科目分類 | ■基礎教育科目 □専門教育科目 |
| | | | □卒業必修 □栄養士必修 ■選択 |
| | | 開講年次 | ■1年 □2年 |
| 英文表記 | Chemistry | 開講期間 | ■前期 □後期 □通年 □集中 |
| ふりがな | いけだ たかゆき | 授業形態・修得単位 | 講義 ・ 2 単位 |
| 担当教員名 | 池 田 隆 幸 | 実施方法 | ■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用 |
| | | 実務家教員担当科目 | |
| 授業のテーマ | 化学的な視点を身につけ、栄養学分野の事象について理解を深める。 | | |
| 授業概要 | 高校において化学を履修していない、または苦手な高校の化学基礎レベルから平易に説明し、原子の構造から物質や水溶液の成り立ち、化学反応を理解し、有機化学、生化学、栄養学を学ぶためのより深く確実な知識を修得し、また化学的な論理性も養うように講義を進める。 | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野の講義の基礎となる物質の成り立ちを理解できる。 ・水と特殊性を理解し、身の回りで起こる生体反応について説明できる。 | | |
| 授業時間外の学習 | 生活する中でいろいろな化学的情報に興味を持つこと。事前にシラバスを見て、次回の内容について教科書・プリントを読み、内容を把握した上で授業に臨むこと。常に復習(週に最低 60 分程度)を心がけ、わからない部分は本あるいは信頼できるインターネットサイト等で調べたり、教員に質問したりするなどして理解に努めること。 | | |
| 履修条件 | ・高校時「基礎化学」を履修した学生は、予め復習しておいてください。 | | |
| 授業計画 | | | |
| 第1回 | テーマ： ガイダンス 化学 これまでの勉強とこれからの勉強 | | |
| 第2回 | テーマ： 栄養学と化学とのかかわり I | | |
| 第3回 | テーマ： 水について知る I | | |
| 第4回 | テーマ： 水について知る II | | |
| 第5回 | テーマ： 元素・原子・分子とは何か I | | |
| 第6回 | テーマ： 元素・原子・分子とは何か II | | |
| 第7回 | テーマ： 元素・原子・分子とは何か III | | |
| 第8回 | テーマ： 溶液の濃度 I | | |
| 第9回 | テーマ： 溶液の濃度 II | | |
| 第10回 | テーマ： 溶液のいろいろな性質 I | | |
| 第11回 | テーマ： 溶液のいろいろな性質 II | | |
| 第12回 | テーマ： 酸と塩基 I | | |
| 第13回 | テーマ： 酸と塩基 II | | |
| 第14回 | テーマ： エネルギー | | |
| 第15回 | テーマ： 化学反応 | | |
| 第16回 | 定期試験 | | |
| テキスト | 土居純子「栄養化学イラストレイテッド 基礎化学」羊土社 | | |
| 参考文献・資料 | 北原 重登ら「食を中心とした化学(第5版)」(株)東京化学社、有井 康博ら「食と栄養を学ぶための化学」(株)化学同人 | | |
| 成績評価の方法 | 出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。定期試験 (80%) および普段の小テスト等 (20%) により評価する。 | | |
| 成績評価基準 | 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) | | |
| オフィスアワー | 基本的にいつでも OK です。 | | |
| 受講生に望むこと・受講のルール | 常に科学的な事象に興味を持って目を向け、疑問点は自ら調べる習慣を付けること。質問はいつでも OK ですが、毎回の質問カードで質問を受け付け、次回に回答します。 | | |